

釣 漁 業 に 関 す る 技 術 交 流 会

長 嶺 巖

1. 交流課題 底延縄の技術交流

2. 目 的

伊平屋島周辺海域は曾根が多く、好漁場を有しているにもかかわらずモズク養殖が盛んなため漁船漁業従事者は少なく、鮮魚の島内消費もまかなえない状況にある。

漁場の有効利用と、漁船漁業を定着させるため、底延縄漁業の盛んな糸満漁協青年部との技術交流会を実施した。

3. 交流場所

糸満漁業協同組合

4. 日 程

平成元年 6 月 28 日～29 日

5. 参 加 者

伊平屋漁協青年部 保久村 昌 章

仲 本 喜 一

6. 交流地の概要

糸満市は、沖縄本島最南端に位置し、人口 49,121 人で古くから県下最大の漁村であります。

糸満漁業協同組合の組合員は、正 3 5 9 名、准 3 9 3 名、計 7 5 2 名の組合員で、近年、底延縄漁業やパヤオ周辺での曳縄漁業が盛んに営まれております。

漁協青年部員は 36 名、ほとんどが漁船漁業に従事しているが、部員数は年々減少しているようである。

7. 交流の内容

6 月 28 日 伊平屋漁協青年部員、普及所到着、午後 3 時から糸満漁協において青年部員の玉城充外 4 名と日程の打合せを行なう。タマン底延縄漁法は、伊平屋とも似ているので、アーラ延縄漁具、漁法の交流を実施することで決定。

17 時 30 分 瑞祥丸 2.3 屯で糸満漁港を出発、18 時 10 分、ルカン礁とケラマ島間の漁場に到着、漁具と操業方法を説明後、操業を開始した。漁場では餌のつけ方、幹縄と枝縄の連結方法など実際に漁具の扱い方の研修を受けた。（漁具の構成は別図 1 のとおり）

21 時 15 分 漁具投下終了、夕食後、休息

21 時 50 分 漁具の引揚げ開始

23 時 10 分 操業終了、漁具は 1 0 0 本の釣針を投入し、サメ 1 尾、ローニンアジ 1 尾、タマン 1 尾を水揚げし、23 時 50 分入港した。

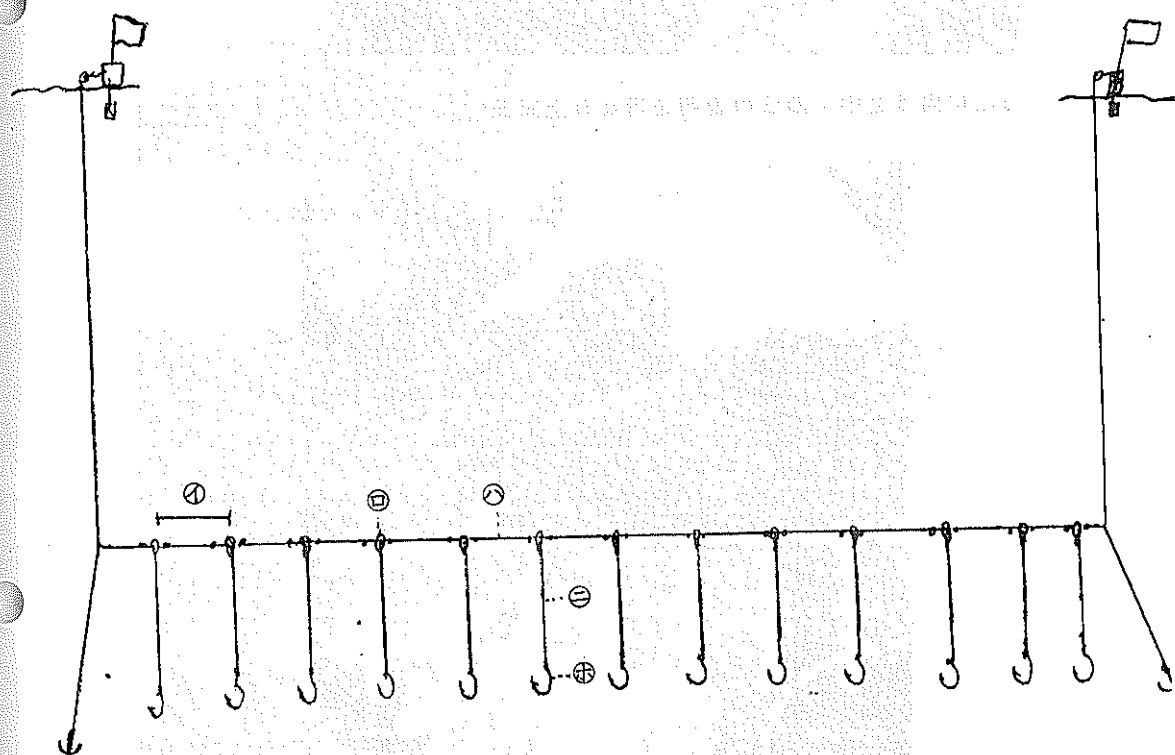
6 月 29 日 7 時、糸満漁協のセリを視察し交流会を終了した。

8. 交流のまとめ

今回の技術交流会で参考になったことは、①漁具の面で幹縄と枝縄を分離して、幹縄をタイコホーラー（みなと鉄工所製作）を利用して漁具の投縄、揚縄を行なっている点で作業効率と、安全性を考えていることであった。②普及している底延縄の餌は、ムロアジかサンマの切身を用いるが、アーラ延縄漁法の餌は、延縄でかかった。サメやウツボの切身を再利用（餌持ちがよい）でき、エサ代が少なくて経費の節減につながっている点は大変参考になった。

最後に、天気がよく、糸満漁協青年部員の大半が出漁していたため、青年部間の情報交換会は実施できなかったが、玉城充氏の協力で乗船しての技術交流会ができ、大変有意義でした。糸満漁協ならびに青年部員の皆さんに心からお礼申し上げます。

図-1 アーラ底延縄漁具図



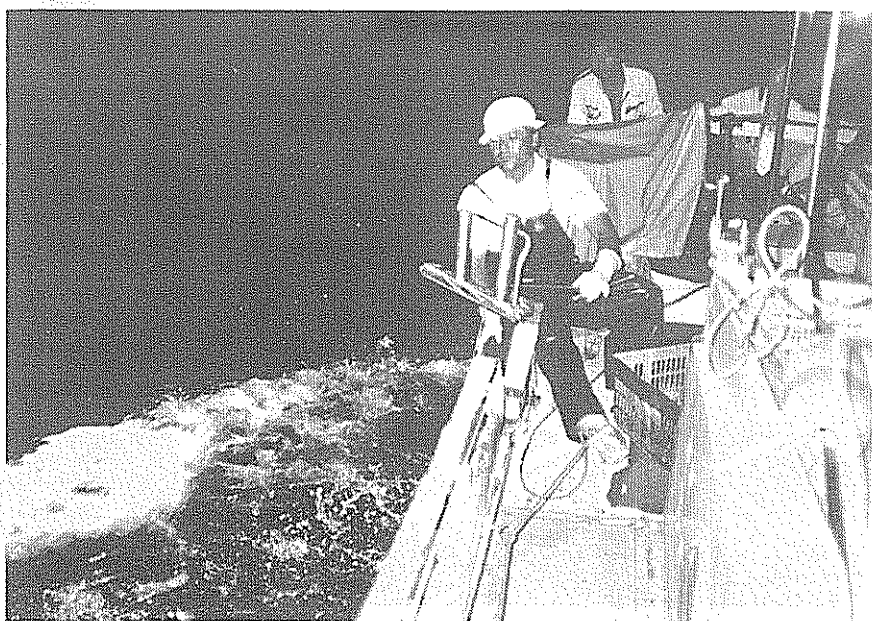
- ① 漁具間 50m 一漁具で釣針は50本、2 漁具を使用
- ② スナップ大 ③ 幹ナイロン 200号（白）
- ④ 枝ナイロン 150号（白）2m ⑤ 釣針 マグロ針 3.4寸



漁場に向う途中に漁法の説明を行なう上原氏



延縄で釣れたサメやウツボは、肉質が固く餌に最適

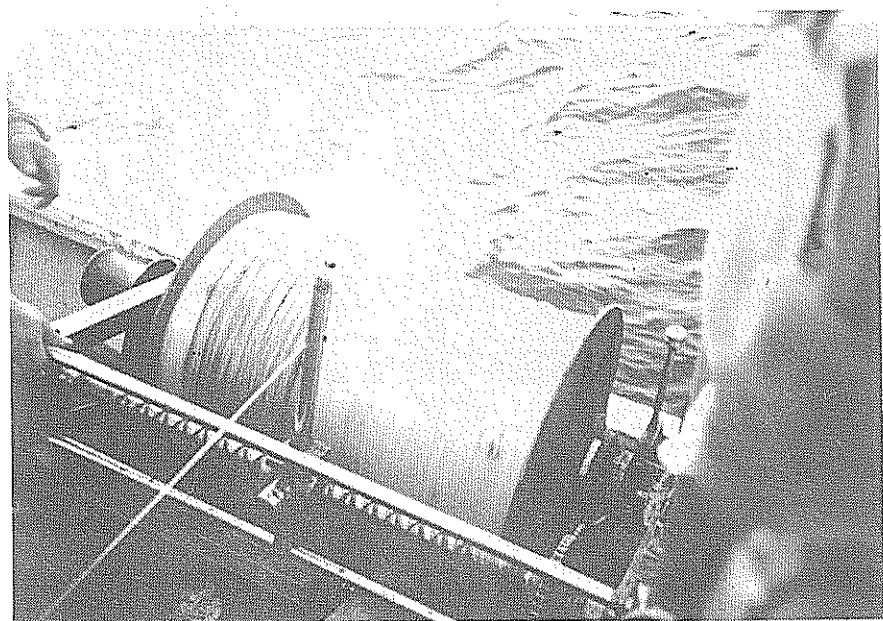


投縄の手本を示す玉城充氏

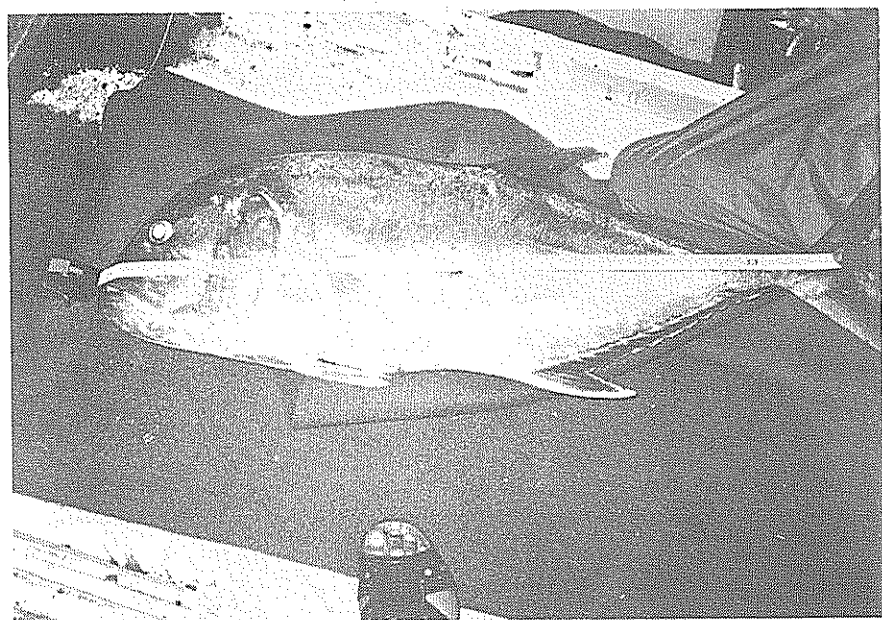


投縄の実習を行なう

幹縄に枝釣をスナップをかける研修



投縄と揚縄巻取に用いるタイコホーラー、これは便利



アラミーバイは釣れなかったが、81cmのローニンアジとタマンが釣れた。
今後が楽しみだ。